

第2回 福岡県環境審議会 環境総合ビジョン専門委員会 意見及び意見に対する対応について

1 委託調査の調査結果について

委員名	意見	対応
浅野委員長	資料 1-1 の P 3 について、福岡市と北九州市以外の都市部のイメージが消えているので、計画の中では上手に位置付けていくことが必要。筑後川流域と遠賀川流域で分けるときに、その中にうまく市街地のイメージも取り込める工夫ができるか。	ご指摘を踏まえ、「都市圏」、「流域圏」の区分に福岡都市圏、北九州都市圏以外の市街地について追記。 ※参考資料 2-1 P3, 4
	資料 1-2 の P 2 で清掃活動の参加人数は減っているが、ごみの回収量は、若干増えている（2024 - 2025）原因について、遠賀川河川事務所から有益な情報を得られるかどうか照会してみてもどうか。	ヒアリング実施。 原因は不明。
	P15 について、「循環型社会」が根本であり（「循環経済」はその手段）、「循環経済」という言葉を使うのであれば、どういう意味なのか、どういう形で位置付けるのか等、「循環経済」が独り歩きしないように工夫が必要。	「循環経済」は、「循環型社会」の構築につながるものであると明記。 ※参考資料 2-2 P16
伊藤委員	資料 1-2 の P 9、10 で平均気温は上昇しているが、温室効果ガスの量は減っている。県で頑張ってもしょうがないという印象を与えてしまうため、他にいいものがあれば良い。	ご指摘を踏まえ文章を修正。 ※参考資料 2-2 P10, 11

伊藤委員	P11 の運輸部門の二酸化炭素排出量はあまり減っていないが、自動車の種類の内訳が分かればよい。	ご指摘のとおりグラフを修正。 ※参考資料 2-2 P12
	P15 の環境省の「リニアエコノミー」から「サーキュラーエコノミー」の図について、「サーキュラーエコノミー」に「廃棄物の処理」が入っていないことに違和感がある。大体の図には、「廃棄物の適正処理」と記載があるので、その図を使用したほうが良い。	ご指摘のとおり図を修正。 ※参考資料 2-2 P16
	P19 の産業廃棄物の発生量はあまり減っていないが、10 年くらいあまり変わっていない。もっと減らすというのもあるが、これを維持するのも大事。言い方を変えても良いのでは。	ご指摘を踏まえ修正。 ※参考資料 2-2 P20
佐藤委員	資料 1-1 の P 3、1-2 の P 2 に関して、河川の清掃によって、例えば、希少生物の生存が維持できている、とか希少生物が増えた等の生物系のエビデンスがあると、清掃が環境を綺麗にしているというところに繋がっていく。	福岡県レッドデータブック 2024 や論文を参考にして、水質汚濁と希少生物の関係についてのコラムを追記。 ※参考資料 2-2 P2
酒井かおり委員 浅野委員長	資料 1-2 の P 3 の内容について、質の向上だけではなく、生活者にとっても経済的にプラスに働くような内容が加われば、幅広い人に届くのではないかと。 ※浅野委員長より「経済負担の軽減や暮らしの質の向上」と書いてはどうかとご提案あり。	ご指摘のとおり修正。 ※参考資料 2-2 P4

2 各柱の目指す姿及び施策の方向性について

委員名	意見	対応
浅野委員長	「②グリーン化・グリーンイノベーション」の「目指す姿」で「環境関連産業」を「環境に関連する産業」にしているのと同様に、小テーマ「環境負荷低減に寄与する産業の育成と環境関連産業の集積」も同じような修正を。	本テーマで扱う産業については目指す姿に記載する「環境に関連する産業」と一致しないため、「環境負荷低減に寄与する産業の育成と集積」と修正。
酒井かおり委員 浅野委員長	「②グリーン化・グリーンイノベーション」のサブタイトルの「環境関連産業の強化」は変えなくてもいいのか。「目指す姿」で記載されているからいいのか。 ※浅野委員長より、変えてみて文章が自然かどうか事務局で考えてほしいとご提案あり。	ご指摘のとおり修正。
伊藤委員	「④循環型社会の推進」に関して、「廃棄物等の適正処理による環境負荷の低減」の小テーマ「再生資源物の適正保管・適正処理の確保」の「再生資源物」が分かりづらいので、注釈等を入れるべき。	素案に注釈を記載。
酒井美和子委員	「⑥健康で快適に暮らせる生活環境の保全」の「その他の生活環境の保全」の小テーマについて、「騒音・振動・悪臭」には「対策」という言葉が付いているが、「放射線」「地盤沈下」には付いていない。「放射線」「地盤沈下」をどうするのか、そのような言葉を付けてはどうか。	「放射線」については、ご指摘を踏まえ修正。 地盤沈下については、「騒音・振動・悪臭」に統合し、テーマ名を「騒音・振動・悪臭等対策」に変更。

3 指標について

委員名	意見	対応
浅野委員長	「①地域づくり・人づくり」の「環境を保全する取組を実践している人の割合」について、やっている人の割合がどれくらいであることを目標とするかは難しいが、だいたい6割から8割か。事務局で考えてみてほしい。	ご意見を踏まえ、今年度実施した調査結果をもとに設定。
酒井美和子委員 浅野委員長	「清掃活動への参加者数」について、通勤中に毎朝1人でごみを拾われている方がいる。理想ではあるが、地道な活動をされている方の人数も含められたら良い。 自治体としての取組をしていて、拾うことができれば、もっと人数を増やすことができるかもしれない。市町村からそういうデータを集めるのもいいかもしれない。	ご指摘があったような個人の取組についても把握する方法を検討したい。